

学校だより

Vol.

111

2022.1



Contents

- 02 第60回入学式
校長 入学式式辞
- 04 三主事・専攻科長あいさつ
- 05 各科・各コースの近況
- 09 インターンシップ報告
- 18 大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業
- 19 地域貢献
- 20 学生の活躍
- 22 TOPICS
- 24 本校の新型コロナウイルス感染拡大防止対応
- 26 体験入学
- 27 新任教職員紹介



福島工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN), Fukushima College



第60回 入学式

第六十回入学式 及び
令和三年度編入学式 並びに
第十八回専攻科入学式 式辞

福島工業高等専門学校

校長 山下 治

新入学生二百二名、編入学生三名、専攻科生二十七名の皆様の福島高専への御入学をお慶び申し上げます。保護者の皆様には、お子様の御入学を心からお祝い申し上げます。

そして、本日、多数の新入学生諸君を福島高専に迎えることができ、教職員、在校生一同、大変嬉しく思っています。

また、この度は、新型コロナウイルス感染防止のため、簡略化した入学式になったことをお詫び申し上げますと共に、ご理解ご協力いただいたことに感謝致します。今年度も、感染のリスクを管理しながらの学校運営になり、三つの密（密閉、密集、密接）が重ならないようにすることや健康観察、手洗い、マスクの着用、不要不急の外出を避ける等、学生本人はもちろん保護者の皆様の協力も必要です。種々ご不便やお手数をおかけしますが、感染者を出さない対応策へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

さて、入学生の皆さん、皆さんが入学した高専は、高校のような中等教育機関ではなく、大学と同じ「高等教育機関」に位置付けられます。法律では、「高専は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」とされ、実践的・創造的技術者

等の養成が重要なミッションとなります。教員は、教諭ではなく大学と同様に教授や准教授となり、入学生の諸君は本日から生徒ではなく学生になります。

福島高専では、皆さんが勉強するにあたり、「三つの教育理念」を定めています。

本校の教育理念の第一は、「広く豊かな教養と人間力の育成」です。我が国や地域の発展にどのように役立つかを考えるためには、最初に、幅広い教養と倫理観を身につけることが大切です。さらに、人生における様々な困難に打ち勝つ人間力を育成することが重要です。皆さんも、変化が著しい現代社会を生き抜くため、超スマート社会の中でAIに取って替わられないよう、人間力の強化に心がけてください。

教育理念の第二は、「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。卒業後、幅広い分野で活躍できる創造的、実践的な人間となるためには、基礎知識に裏打ちされた柔軟な発想や企画力を保有する人材となる必要があります。皆さんには、創造性と実践性を兼ね備え、新たな産業を起こしうる「イノベーション人材」に育ってほしいと思っています。

教育理念の第三は、「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。グローバル化に伴う国際競争の激化に伴い、我が国を取り巻く状況は激変してきています。このような背景を踏まえ、皆さんには英語力を向上させることは言うまでもなく、国際的価値観をSDGs(サステナブル・デベロップメント・ゴールズ)などを通じて学んでもらいます。異なった環境に住む相手の考え方を理解した上で、その相手とコミュニケーションをとれる能力を身につけて欲しいと思っています。

さて、この三つの教育理念を達成するため、皆さんはこれからの五年間、次の「五つの心構え」を念頭において学生生活を送ってください。

まず、第一に、「ルールを守る」。当たり前のことですが、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活出来るように努力してください。今年度は特にウイルス対策もあり、一人のルール違反が学校



全体に悪影響を与えることも想定されます。「ルールを守る」こと、しっかり心がけてください。

第二に、「自ら学ぶ」。授業で教えてもらうだけではなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを授業で質問して確認する姿勢を保ってください。皆さんは、目的を持って、この福島高専に入学してきたはずです。その目的に向かって、自ら学習する姿勢を保ってください。高専では、自宅に戻ってから予習や復習を行わない限り、勉強についていくことは困難です。勉強ができないことを他人の責任にしないで、常に目標を持ち、勉学の動機を失わず能動的に勉強してください。

第三に、「挑戦する」。地域貢献やインターシップそして課外活動にも挑戦してみてください。高専では、様々な活動に参加する機会が与えられます。今は、コロナ禍で活動が一部制限されることはありますが、文化部やスポーツ部に所属するのはもちろん、地域貢献活動や海外で行われるインターンシップ・留学等にも参加し、集団や組織での活動能力やコミュニケーション能力を身につけてください。

第四に、「レジリエントになる」。レジリエントとは、回復力、復元力が強いことを意味します。今、コロナ禍の中で満足な状況でことが進まないことが数多くあります。先が見えない不透明な時代になっている昨今、社会で活躍するためには、「レジリエントである」必要があります。これからの五年間で、学校で起きる目の前の困難をくじけず、粘り強く克服していき、レジリエントな自分を築いていただきたいと思います。

第五に、「仲間をつくる」。人は支えあって生きていくものです。お互い助け合いながら、高専生活を過ごすため「スマホではない」仲間をつくってください。高専在学中の友人やクラスメート、クラブ活動の仲間は、一生の友人になりますし、これらの友人によって皆さんの学習も円滑に進みます。教職員との関係も大事にしてください。学びを支える先生方との関係の築き方も大事なことです。その結果として人間力が育まれます。ここで得る人間力が次世代を生き抜く力になることを忘れないでください。

以上を踏まえて、この福島高専で学ぶ五年間は必ず皆さんが実社会で生き抜く力を育んでくれます。日々、健康に気を付けて、夢と希望を持って勉学に励んでください。

次に、専攻科への入学生諸君。皆さんは、本科五年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科二年の課程を終え、学位審査に合格すると、大学改革支援・学位授与機構から大学卒業と同じ学士の学位を得ることができます。皆さんには、グローバル化の時代にあって、留学や海外インターンシップ、海外渡航が難しい今であれば、オンラインによる国際イベントへの参加などに挑戦し、国際的な活躍が可能な基礎を育てていただきたいし、これからの超スマート社会を生き抜けるよう、広く豊かな教養と人間力を更に磨いていただきたいと思います。そして、早期高等専門教育を受ける皆さんは、大学の学士はもちろん大学院レベルの学生とも競える力を持つことになります。学生時代の活躍と後輩達の良き手本となることを期待しています。

最後になりますが、新入学生諸君全員に、新型コロナウイルス対策を含め日々健康に気を付けながら、勉学や人間形成に励み、本校を巣立つまでに大きく成長して、将来、国内はもちろん国際的にも活躍できる実践的・創造的技術者に育つことを祈念して式辞といたします。



三主事・専攻科長あいさつ



コロナ禍での授業計画

教務主事
緑川 猛彦

今年度から教務主事を拝命しました都市システム工学科の緑川です。よろしくお願いいたします。
今年度は、入学式を学生と保護者の2クラスに分割したりリモートで実施したものの、昨年度の経験

を踏まえ、その後の授業は新学期開始から通常の対面授業を実施してきました。しかしながら、7月下旬に学寮での新型コロナウイルス感染が発覚したため、「新型コロナウイルス感染者が出た場合の対応（リスク管理室会議）」に従い対応すると共に、急遽2週間の休校を決定し、実質的な夏季休業に入るようになりました。その後、いわき市をはじめとした福島県内のまん延防止等重点措置や東京都等の緊急事態宣言を鑑み、前期の残りの授業を遠隔で実施すると共に、前期期末試験を代替課題で評価する事とし、学内での感染防止を図りました。後期の授業は、年度始めの予定通り10月1日から開始しましたが、感染拡大防止策を徹底するため10月15日までは遠隔授業を行い、第4週目から対面授業といたしました。県立高校と比較して遠隔授業が多い印象ですが、本校では学生数のうち約1/5が寮生であることから、寮生と通学生の両方で感染が拡大しないような授業計画を立てることに苦心しております。

現在の所、新型コロナウイルス感染症の拡大傾向は収まりつつありますが、第6波の懸念があり予断を許さない状況です。今後も必要に応じて遠隔授業を取り入れながら、基礎学力の充実及び実践力の向上にむけて努力して行きたいと思っておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



ますます充実 「チーム福島高専」

学生主事
笠井 哲

学生主事5年目となる一般教科の笠井です。今年度も、続くコロナ禍のため学びを最優先した結果、学生生活は後回しになってしまい

ました。学生委員会としては現在、できるだけ「日常を取り戻す」というスタンスで取り組んでいます。福島高専で良かった、と少しでも思ってもらえるよう、学生生活を楽しむ工夫をしていくつもりです。

さて、今年もTeamsで全学生対象のチーム「学生委員会2021」を立ち上げ、「学生便覧」と「生活規則」等を入れました。スマホで規則を確認し手続き書類をダウンロードできるので、保護者の皆様にも学生指導にご理解とご協力をいただけたと思います。これまで、本校がご家庭や地域と協働する「チーム福島高専」に、警察署や弁護士が加わっています。さらに11月22日に、本校と連携協定を結んだ「いわき市医療センター」も加わり、ますます充実しました。どうか本校を信頼し、安心してお子様をお任せください。

また、SNSについては、いわき中央警察署生活安全課の方による「情報モラル講座」を実施しました。今年も、録画を配信しています。学校だよりが届く頃には、お子様も視聴済みですので話を聞いてみてください。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。



磐陽寮 刷新へ

寮務主事
松江 俊一

今年の磐陽寮は33名の新入寮生を迎え、198名の寮生でスタートしました。コロナ禍となってから2年ほど経過しましたが、残念ながら7月末に寮生を中心に感染者が複数発生し、学校を閉鎖する事態となりました。後期からは、寮

の感染対策をさらに徹底し再発防止に努めているところです。寮の行事もほとんどが中止となり、制約の多い寮生活を続けてきました。11月に入り感染状況が終息に向かってきているため、後期は安全対策を講じながら規模を縮小して交流行事を中心に実行に移してまいります。寮生活に弾みをつけるためにも、良い思い出をたくさん作るためにも、これからもぜひ「新しい生活様式」を守り、協力しあって生活していただきたいと思います。

さて、今年は国際寮が年内に完成する運びとなっています。また若葉寮（女子寮）も現在新寮を建設中です。さらに来年度は食堂、青葉寮、白雲寮（男子寮）を大改築し、国際寮・女子寮を含めすべて個室仕様でブロックごとに広い交流スペースを設け、学年をまたいださらなる交流を期待しています。

福島高専は来年度“還暦”を迎え磐陽寮も刷新されます。これを機に、今後ますますグローバルに活躍する学生を輩出すべく、広く国内外から学生を受け入れ、支援してまいります。保護者の皆さまにおかれましても、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



少数精鋭の専攻科

専攻科長
原田 正光

現在専攻科には、1年生26名、2年生43名の学生が在籍しており、5つの専攻の分野で学んでいます。学生の皆さんは、本科を卒業してもあまり大きく変わらない学習環境を生かしながら学生生活を送っている

ようです。

本校専攻科教育の特徴の一つにMOT教育があります。実社会での業務は技術も経営も互いの連携が必要であることから、在学中に互いの必要性や内容に触れておくことはとても重要です。そこで専攻科では、システムデザイン、産業技術論、製品開発論、生産管理論、産業財産権といった授業科目を必修として学びます。これらの科目は、大学改革支援・学位授与機構の学士学位認定では必ずしも各専攻の分野の専門科目としては認定されていないのですが、決して異分野扱いせずこれらを含めての専門能力だと考えて欲しいところです。きっと今後のキャリア形成にプラスになると考えています。

昨年度来コロナ禍の影響で、一時期遠隔授業を実施しました。しかし、専攻科の特徴である少人数教育のおかげで、本科よりは多少早いタイミングで対面授業にシフトすることができました。制約環境下の教育はまだ続くかもしれませんが、引き続き創造的実践力を備えた学生の育成に努めてまいります。

各科の近況 [本 科]



一般教科の近況

一般教科長 根 本 昌 樹

昨年度は、4月スタートから遠隔授業対応で通常の学校生活が送れず不安な時期を過ごし、心身ともに不安定な学生もありました。今年度は、比較的順調に始まった学校生活も前期末から休校措置や遠隔授業対応となり、ようやく11月に入ってやっと落ち着きを取り戻した感があります。一般教科は、主に1年生・2年生のクラス担任や専門教育の基礎となる基礎教育を担当しています。特に、低学年の学生にとっては、単位取得や進級の不安がある中で「高専」という特殊な学校生活をより充実するため、一般教科教員全員で学生指導に当たっています。学生の皆さんも自分一人で悩むことなく、各教科担当教員へ相談して欲しいと思います。また、その中で自力で解決する力も身に付け、成長して欲しいと願っています。

9月には、国語科新任の廣瀬航也先生が着任され、後期の授業からスタートしました。まだ慣れないところもあると思いますが、フレッシュな先生ですのでよろしくお願いします。一般教科24名で心身ともに健全な学生を育むため努力してまいります。



機械システム工学科の近況

機械システム工学科長 高 橋 章

機械システム工学科になりまして5年目となり、以前にも増して、社会からの要求に応えられる状況となりました。優秀な卒業生を輩出するために新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら、4月当初から対面授業を行って参りました。残念なことに7月下旬から感染者が出て、いわき市保健所からクラスターの認定をされました。本校は7月26日から休校となり、福島県がまん延防止等重点措置が適用されたこともあり、前期期末試験は課題に代替され9月末ごろの提出となりました。後期になっても10月15日までは遠隔授業となりました。学生は現在、卒業研究をはじめとして、登校できなかったことによる遅れを挽回するために鋭意努力しております。

教員の異動につきましては、松本匡以先生が、令和3年3月末でつつがなく定年を迎えられました。現在は再雇用教員として、昨年度までと変わらず教べんを取っておられます。

5年生の進路状況（11月23日現在）につきましては、就職希望者が15名で、現在までに11名が内定しております。進学希望者は23名でそのうち専攻科合格者が5名、国立大学合格者が、東北大学、東京工業大学、電気通信大学、筑波大学、千葉大学などに15名おります。学生自身の頑張りもありますが、高校からの進学では、進学校であってもこれほどの結果は難しいかと思います。高専が就職のみならず、進学に関しても非常に有利であることを改めて痛感しております。

今後も優秀な学生を育成するために機械システム工学科教員一同精励しますので、ご家庭からのご支援・ご協力も引き続き宜しくお願い申し上げます。



電気電子システム工学科の近況

電気電子システム工学科長 伊 藤 淳

新入生を迎えた4月から半年以上が過ぎ、現在は、ほぼ落ち着いた学校生活を送ることができています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大は、5年生の就職や進学、4年生のインターンシップをはじめ、学生の活動に大きな影響を与え、多大なストレスとなったと思われます。このような状況の中でも、5年生は、専攻科進学5名、大学編入学13名、就職内定17名となり、若干未定の学生がおりますが、ほぼ順調に進路が決まっております。（11月末

時点）

今年度は、新任の教員を迎えることで、学科内が活気づいたように感じられます。また、設備面では体験入学などでの動画配信が増えたことに伴い、動画作成のための設備を導入し、今後は在校生のための教材づくりにも活用する予定です。本学科の教職員すべてが、より魅力のある学科となるよう教育や研究に取り組んでおりますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

各科の近況 [本 科]



化学・バイオ工学科の近況

化学・バイオ工学科長 内 田 修 司

ワクチン接種後もマスクの装着と距離、換気、アルコール消毒を2022年にも継続し、追加のワクチン接種も実施されるようです。学生実験では、保護メガネ、グローブといった安全確保に加えて、感染症対策としてマスクの装着、実験室には仕切り板の設置を行っています。学びを止めない方法として採用されたリモート授業は、すっかり定着しましたが、遠隔地の先生に講義を担当していただけるなどメリットも確認でき、対面と遠隔を併用して学びを深めるよう取り組みをしています。

青柳克弘教授が令和3年3月に定年退職されました。長年に渡る教育、研究、地域貢献など青柳先生の取り組みに改めて感謝を申し上げます。5月には本校の名誉教授となられました。現在は嘱託教授として学生の教育に注力頂いております。

今年度のクラス担任は、1C小田先生(物理)、2C千葉先生(物理)、3C酒巻先生、4C車田先生、5C青木先生です。コロナ禍中で進路の選択期となった5年生でしたが、青木先生のご指導もあり、希望する進路の選択ができました。(内訳 進学18名(大学編入13名、本校専攻科5名)、就職内定18名)

今後も社会の要請に応えられる人材の育成に取り組めますので、ご支援、ご協力をお願いします。



あなたも、まち（社会）のお医者さん

都市システム工学科長 齊 藤 充 弘

今年度を迎えて、1年生から5年生まですべての学年が都市システム工学科となりました。「あなたも、まち（社会）のお医者さん！」をキャッチフレーズとして、体験入学をはじめ学科の広報活動を行っています。これは、「ものづくり」や「まちづくり」は元来、社会のさまざまな課題を解決し、成長・発展へと導くものであり、それを先導する教育・研究を行う高専は、まさしく「社会のお医者さん」であるということと、地域社会や学生にとっても決して敷居が高くない、気軽に立ち寄り相談することができる身近な「まち医者」の存在であるということのメッセージを強く込めたものです。

このメッセージに導かれるようにして、今年度も4月に1年生41名が元気に入學してきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響は学生生活にも大きく影響しており、授業や実習・実験、放課後のクラブや研究活動など、学生は不自由を強いられています。特に、校内体育大会や学科行事日等、学生にとって楽しい行事がすべて中止となり、みんなのために、みんなで仲良く協力し合う“シビル魂”を発揮することができず、都市システム工学科の良さを表現する機会もなかなかありません。それでも、学生は変わらず目の前のことに対して素直にまじめに取り組んでおり、頼もしい限りです。今後も引き続き、常に学生と向き合った教育、研究、学生指導と地域連携に、学科スタッフが丸となって取り組んでまいります。ご家庭におきましても、ご支援、ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。



ビジネスコミュニケーション学科の近況

ビジネスコミュニケーション学科長 芥 川 一 則

コロナ禍も2年目となり、学生も教員も遠隔授業に慣れてきたように感じられます。校務ではオンラインによる会議が頻繁に実施されるようになりました。外部との会議でもオンラインが頻繁になり出張が減少の傾向にあります。今年度は基本的に対面授業となりました。対面の環境では言葉以外の表情で確認できるため、学生の理解度を確認しながら授業が進められると感じております。オンライン授業でのメリットもありますが、学生も含め対面授業のコミュニケーションの良さを評価しているようです。

ビジネスコミュニケーション学科では、本年度37名の卒業生を輩出する予定です。現在の進路状況は、12月末時点で、進学希望19名中11名は進学先が決まりましたが、8名は未定です。就職希望者は18名で、全員の進路が確定しております。傾向として、編入学を意識して高専を選択する学生が増加しているように思われます。また、特徴として有名校を志向する学生が増えているように感じられます。コロナ禍のため編入学試験をオンラインによる面接で実施する大学が引き続き見受けられています。

withコロナにおける教育環境の改善に取り組んでおります。学びを止めない、を合言葉に対面授業の推進と学生の皆さんの安全と安心の確保に努めながら卒業式を迎えられるように努力してまいります。保護者の皆様におかれましては、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

各コースの近況 [専攻科]



生産・情報システム工学コースの近況

生産・情報システム工学コース長 植 英 規

令和3年度の生産・情報システム工学（PI）コースは、1年生4名（機械2名、電気2名）、2年生5名（機械3名、電気2名）の、合計9名の学生が在籍しています。今年も多くの制限がある難しい状況が続いている中、学生たちの積極的な行動もあり、幸いにも比較的早い段階で2年生全員の進路が決まりました。1年生のインターンシップでは、オンラインで実施するものもあり、全員が実際の現場に行くことができるようになるにはまだ少し時間がかかるかもしれませんが、学生は自らの置かれた環境の中でたくましく日々の活動に取り組んでいます。

新型コロナの対策も日常になった現在、遠方でも容易につながることができる「オンライン」は、ツールとして様々な所で活用されています。学会での研究発表も今はオンラインが主流で、学生たちもパソコンの前で学会発表に取り組んでいます。しかしながら、オンラインに大きな利点がある一方で、学業や研究の日常活動ではオフラインの作業やコミュニケーションが重要な場面が多いのが実情です。学生たちが充実した学生生活を送り大きく成長していくためにも、今後も様々なツールを使い分けて学生たちをサポートしていきたいと思います。



エネルギーシステム工学コースの近況

エネルギーシステム工学コース長 鄭 耀 陽

今年度、エネルギーシステム工学コース（ESコース）の新入生は昨年度より少ない5名で、在学中の2年生12名を加えると17名の在籍となります。今年度、ESコース5名の新入生のうち3名は、本校機械工学科卒業生、ほか2名は本校電気工学科卒業生です。生産・情報システム工学コースとエネルギーシステム工学コースは機械システム工学科と電気電子システム工学科卒業生より混成され、シナジー効果が期待されます。今年は、いまになって新型コロナウイルス感染が大分落ち着きましたが、影響はまだ続いています。教員と学生は一丸となり、知恵を出し合って乗り越えようと頑張っています。後期は、Teamsを使ったオンライン授業を2週間活用した後、対面講義に戻りました。いまは第6波を警戒しながら学校生活を平穏に送っています。

7月14日は1年生、7月21日は2年生の特別研究の中間発表会を計画通り対面式で実施しました。2年生12名の進路については、11月末時点で、7名は企業への就職、4名は大学院への進学が決まっており、残り1名は未定です。

今後は社会情勢を見ながら、臨機応変に学生たちの充実した学校生活と研究活動を支えていこうと考えております。



化学・バイオ工学コースの近況

化学・バイオ工学コース長 柴 田 公 彦

今年度から化学・バイオ工学コース長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。今年度は本校物質工学科卒業生5名を新入生として迎え、2年生7名とあわせて12名の学生が在籍しております。

1年生は、これまで卒業研究を行ってきた研究室にそのまま所属することを選択し、スムーズに特別研究を開始しております。また、夏季休業期間などには、県内外の企業や大学等でインターンシップを行いました。夏頃の新型コロナの感染者急増により企業でのインターンシップが急きょ中止となってしまう、代わりに企業研究に取り組んだ学生もありましたが、このインターンシップはそれぞれの学生が今後の進路を深く考えるきっかけとなったようです。

2年生は卒業後の進路が決まり（大学院への進学4名、就職等3名）、現在、専攻科修了、学位取得に向けて研究活動を中心とした学生生活を送っております。コロナ禍の影響で研究の進展が遅れた学生もありますが、現時点で全員が学会等において研究成果の発表を行いました。

今年度も残りわずかとなりましたが、引き続き、学生と教職員が一丸となり教育・研究に取り組んでまいります。

各コースの近況 [専攻科]



コロナ禍でも専攻科生は

社会環境システム工学コース長 齊藤 充弘

2017年度以来4年ぶりにコース長を務めさせていただいております。

今年度は2年生15名、1年生9名の学生でスタートしました。

新型コロナウィルスの感染拡大は、日頃の学業や研究活動、さらには1年生のインターンシップや2年生の進路を決める活動にも大きく影響しました。それでも学生各自が目標に向かって一生懸命に努力を継続し、2年生は全員進路を決定しました（大学院への進学3名、就職12名、うち公務員3名）。また、インターンシップについても10月までかけて民間企業を中心に赴いて実習に取り組み、専門知識や技術の習得とともに実践的に学ぶという貴重な経験を積むことができました。

7月の終わりから9月にかけては、登校することができないという不自由を強いられましたが、オンラインを活用するなど工夫をして研究活動に取り組みました。その成果を学会などで発表し、第46回土木情報学シンポジウムにおいて優秀講演賞を受賞するというとても喜ばしい報告もあります。

新型コロナウィルス感染拡大の影響は学校生活においてもとても大きいものですが、みんなで知恵を出し合い、工夫し、協力し合いながら、与えられた条件の下で最大限の力を発揮するべく毎日生活しています。今後も引き続き、このような素直でまじめな学生と常にむきあった教育、研究、学生指導と地域連携に、専攻科スタッフが一丸となって取り組んでまいります。ご家庭におきましてもご支援、ご協力いただけますようお願いいたします。



ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学コース長 湯川 崇

今年度のビジネスコミュニケーション学専攻は1年生が3名、2年生が5名在籍しています。

1年生で実施されるインターンシップは、新型コロナウイルス感染症の影響で通常の形態でのインターンシップが実施できず、オンラインでの参加や、インターンシップの代替として認められた企業や大学の調査として実施しました。早く新型コロナが終息し、以前のように海外での長期インターンシップが再開できるようになることを願っています。

2年生の進路は4名が就職、1名が進学を希望しており、就職希望の4名は全員民間企業への就職が内定し、進学希望の1名は大学院への進学が決まっています。

2年生の後期からは、これまで行ってきた特別研究の成果をまとめて論文を執筆する時期になります。福島高専専攻科は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の特例適用専攻科の認定を受けており、所定の単位を取得し特別研究の論文を提出することで、専攻科修了時に学士の学位が与えられます。

専攻科は2年間という短い期間であるうえ、コロナ禍で思うような活動ができない状況にありますが、全員が修了後の進路目標を達成できるよう、教職員一同支援していきたいと考えています。



本校では、4年生と専攻科1年生に、校外実習・実務研修などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているかをそれぞれの学生が理解することを目的としています。

本校では、こうした経験を今後の学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身につけるように、教育と指導を行っています。

人機一体でのインターンシップを終えて 機械システム工学科4年 青柳 駿

9月7日～9月30日にかけて、株式会社人機一体でインターンシップをさせて頂きました。人機一体は、先端ロボット制御工学をベースとして「人型重機」を開発・社会実装することにより、「あまねく世界からフィジカルな苦役を無用とする」ことを目指すベンチャー企業です。私はロボット技術に興味があり、将来そのような分野で働きたいと考え、ロボット開発を主としている株式会社人機一体でのインターンシップに参加させて頂きました。

今回のインターンシップでは、実際に仕事をしながらロボットの先端技術について学ばせていただきました。インターンシップを通し、技術だけでなく多くの事を学ばせていただきました。

まず、実際に現場で活用するロボットについてです。現在、ロボット技術が蓄積されていく中で、現場では多くの方が肉体労働せざるを得ないというのが現状です。その問題を解決するために、人機一体では人型重機の開発をしています。実際に人型重機の「零式人機」の操縦体験をさせて頂きました。現場で作業するための直感的に操作する方法や、機械工学としてのロボット工学の最先端技術を体感しました。

また、実際に仕事をする中で学んだこともありました。特に、コミュニケーションの重要性を改めて実感しました。毎日必ず朝会があり、その中

でタスク状況の情報共有をします。顔を合わせて会話することで、互いのコンディションを確認したり、簡単な問題を解決するなど、全員が集まる機会を効率的に活用していました。実際、その日のタスクが進めやすくなり、作業を効率化することが出来ました。

このインターンシップは、今後の進路や活動などについて方向性を固めるきっかけにもなりました。この経験を活かして、自分の技術向上を目指し、社会実装できるロボット開発が出来るようになりたいと考えております。コロナ禍という厳しい状況の中で受け入れて下さった株式会社人機一体様への感謝を持ちまして、インターンシップの報告とさせていただきます。



インターンシップを終えて

機械システム工学科4年 Andy William

令和3年9月13日、大阪にあるフードテクノロジーエンジニアリング株式会社のインターンシップに参加しました。この会社は、食品に関する会社の冷蔵や冷凍のシステムを作る会社で、お客さんの注文に合わせて機械を設計し製作しています。コロナウイルス拡散防止のため、大阪に緊急事態宣言が出ましたが、インターンシップの日の前あたりに幸いに解除され、現場で参加することができました。

一日目に、インターンシップのガイダンスがあり、5日間のスケジュールの説明を聞いた後に、インターンシップでお世話になる社員さんの自己紹介、会社の基本理念と歴史、営業とワークフロー、会社が作っている様々な冷凍機について学びました。二日目に、冷凍や冷蔵システムの講義を受けました。この講義で、冷凍や冷蔵のサイクル、使用している機械の役割、温暖化につながる冷媒のことについて学びました。三日目は、中日本株式会社を見学しに行き、大型の冷蔵庫に入りました。その冷蔵庫は5000t貯蔵でき、野菜や肉などの保存温度が異なる食品を区別し、保存しています。その後、鶏の加工工場の講義を受け、

適切な職場を作るために様々な配慮が必要だと学びました。4日目は、冷凍実験を行い、実験で集めたデータを分析し、資料を作成しました。5日目は、4日目に作成した資料をもとに社長の前で発表しました。発表後は、新入社員の実体験について話を聞き、最後に、社長が自身の経験やこの業界について様々なことを話してくださいました。

今回のインターンシップから、自分の将来について少し想像ができました。環境に意識しながら、研究を進めるのは大事だと改めて実感することができました。この5日間は自分にとって大切な経験になったと思います。



ファナック株式会社でのインターンに参加して

電気電子システム工学科4年 松本 蒼矢

私は今回、ファナック株式会社で5日間のオンラインインターンに参加させていただきました。ファナック株式会社は、FA商品やロボットの研究開発、製造等を行っている会社です。

生産技術業務体験では、実際に起こったヒヤリハット事案から幅広い視点で危険を予知し、その根本的原因をどのように解決するかの実習を行いました。作業効率、安全性の両方の視点から解決策を導き出すことはとても難しく、柔軟なアイデアを出す能力が必要であると感じました。

CNCのプログラム実習では、他高専の機械科の方と二人一組になり、与えられた課題に対するプログラムを作成しました。プログラムを作成する際には、学校で学ぶプログラムの知識の他に、最適な工具経路を考える機械の知識も必要となり、お互いに教え合いながら進めていきました。活発に意見交換をし、スムーズに課題を達成することができ、他分野と協力する大切さを改めて感じることができました。

ROBOGUIDE操作実習では、シミュレーション上の産業用ロボットにアームの位置を教示し、与えられた課題ごとの動きをさせるという実習

を行いました。パソコン上で三次元のロボットの位置を把握する必要があり、初めはとても苦戦しました。しかし、担当者の方に視点の動かし方のヒントや安全性の高いアーム軌道を教えていただき、何とか課題を進めることができました。

今回の実習では、工夫した講義内容やシミュレーションによる業務体験などを用意していただき、とても充実したインターンシップにすることができました。ファナック株式会社のサービスや工場自動化に対する情熱に触れることができたことは、エンジニアを目指す者として、とても良い経験となりました。

今回のインターンシップでは、自分の知識の狭さを痛感したので、今後自分の専攻分野の知識のみでなく、様々な分野について学んで、幅広い視野を手に入れられるようにしたいと思います。



インターンシップを終えて

電気電子システム工学科4年 馬目 拓人

私は、インターンシップで、株式会社総合通信さんの実地研修とNECネットエスアイ株式会社さんのオンライン研修に参加しました。

株式会社総合通信さんの実地研修は、3日間の研修でした。1日目には、事務作業の体験として、excelを用いた積算書の作成を体験させていただきました。その後は、いわき市の防災無線の設置時の資料や、市民会館などでの音響設備の点検時の資料を見せていただきました。1日目の最後には、高いところを見るときなどに使用するドローンの操作を体験させていただきました。2日目と3日目には、常磐市民会館の音響設備点検の実習を現場で体験させていただきました。音声調整卓のイコライザーやインピーダンスの点検、舞台上のスピーカーやマイク端子の電力測定、音場測定を実際に体験させていただきました。

NECネットエスアイ株式会社さんのオンライン研修は、3日間の研修でした。1日目には、オフィス紹介や本社についての説明、質疑応答などがありました。2日目には、事業紹介を受け、自分の興味を持った事業についてグループワークを

実施しました。その後、5Gの説明を受け、5Gでやりたいことややりそうなことについてグループで話し合い、発表しました。3日目には、組織適応性テストという簡単な性格診断を実施し、自分の長所や短所について考えたり、自分の価値観についてグループ内で発表し、意見交換したりしました。また、最近の事業についても説明を受けました。

今回のインターンシップで様々なことを経験し、今後は自分の専攻している分野のことだけでなく、たくさんの分野について学びたいと思いました。そして、現場で経験したことを今後に活かしていきたいと思います。



インターンシップを経て

化学・バイオ工学科4年 鈴木 壮孝

私は、高専で私自身が学んでいる化学が実業の最前線でどのように活用されるのかを実際に見聞し、知見を広げたいという思いを抱いていました。そこで今夏、堺化学工業株式会社小名浜工場でのインターンシップに参加しました。

堺化学工業は主に無機材料の開発と製造を行っており、なかでも酸化チタンが主力製品として有名です。私は、社のある主力製品素材の化学処理による高機能化をテーマとし、5日間実習を行いました。主な実習内容はラボ試作、試作品分析、資料作成です。このうち、ラボ試作と分析については実際業務に立ち合い、見学と実地体験をさせていただきました。

中間製品の作製から始まり、いくつかの工程の後、ほかの汎用素材とあわせることにより作られた混合素材を機械加工するのが、私が今回行った試作のフロー概略です。ピーカーひとつとっても、普段使用しているものの数倍以上の大きさで、私が普段行っている学生実験とは別世界に感じられ、驚きの連続でした。しかし同時に、初めて訪

れる場所でも大きさは違えど普段目にする器具があることに、どこか安心している自分もありました。分析実習では、ある物理化学的特性の評価と機器を用いた観察を行いました。どちらも授業等で学んだ内容であったため、座学の知識を実際に体験できる貴重な機会となり、それらをより深く理解することが出来ました。

また、実習の合間に、堺化学工業株式会社に勤務している二名の福島高専卒業生の方に進路に関連するありがたいアドバイスをいただきました。

一製品の開発にあたり膨大な数の試作を行い、その都度工程や試薬の量を改善し、地道かつ確実に製品を完成させる企業努力に大変感銘を受けました。今回それを体験できたことは、私にとって貴重な経験となりました。

この5日間は高密度な経験の連続で、私の将来に対する考え方を劇的に広げてくれました。進路で悩んでいる方も進路が決まっている方も、ぜひインターンシップに参加し、実業の雰囲気を感じ、機会を持たれることを強くおすすめします。

東北大学インターンシップ体験記

化学・バイオ工学科4年 Chew Zhi Wei

私は、東北大学工学部化学・バイオ工学科長尾・菅研究室でのインターンシップに参加しました。長尾・菅研究室は、主に材料の微視的空間配置を精密に制御するビルディングブロック工学（「微粒子を集めて創る」新しい機能性材料作製法の開発）を中心とした研究を行っています。今回私がインターンシップで実施した研究実習の内容は、金ナノ粒子の合成とその特性解析でした。

最初は金ナノ粒子についての予備知識もなく、それがどの分野でどのような役割をはたしているのか全然知りませんでした。説明を受けているうちに、金ナノ粒子が現代のライフサイエンスの世界で大変重要であることがわかってきました。例としては、免疫細胞の電子顕微鏡観察用の染色マーカー、インフルエンザ・糖尿病・妊娠の簡易検査キットのイムノクロマトグラフィー用の色素などが挙げられ、認識を新たにしました。

研究室についた時はとても緊張していましたが、研究室の皆さんは親切に声をかけてくれて、緊張はすぐにやわらぎました。そして昼休み時間にも皆さんと一緒に売店に行き、歩きながらいろいろな話をしました。ちょうど秋だったので、東北大学青葉山キャンパスの周囲に植えられた木々は色づき、その紅葉風景はとても素敵でした。

最初の実験は金ナノ粒子（AuNPs）の液相合

成でした。最初は透明な溶液でしたが、還元剤のクエン酸水溶液を加え80℃の恒温槽で4時間で保温すると金ナノ粒子が生成し、溶液が鮮明な赤色に呈色しました。それは私にはとても感動的でした。次に、研究室の方の指導下で、UVスペクトル、DLS分析装置を使い、金ナノ粒子の特性評価を行いました。研究室の方は、金ナノ粒子の解析を行いながら、並行してそれらの計測原理も丁寧に説明してくれました。最終日には成果発表会があり、今回の実習に習得したことを皆さんに話しました。自分の発表は、あまり良くなかったと思ったのですが、反面、そこから自分の習ったことをいかに他人にわかるように説明するかの大切さをしみじみと感じました。

今回のインターンを通し、自分の不足している部分を見つけられました。これから多くの人々から学び、幅広い知識や技術、そして説明能力を着実に身につけたいと思います。



インターンシップを終えて

都市システム工学科4年 遠藤 潤

私は9月6日～9月17日の10日間、極東興和株式会社様の広島本社にてインターンシップに参加させていただきました。極東興和株式会社は、持株会社である東証一部上場(株)ビーアールホールディングスの中核企業として、プレストレストコンクリート橋の設計・施工、コンクリート構造物の補修・補強、鉄道関連事業などを行う建設会社となっております。

1日目に事前研修として会社の概要や橋梁建設の歴史等、色々説明を受けましたが、そのなかでも社会人基礎力のお話が一番印象に残っています。社会人基礎力セルフチェックというものを行い、社会人としての力がどの程度なのか分析した結果、今の自分の力不足を痛感しました。2日目からは多くの現場を訪れ、設計体験を行い、多くのことを経験し、知識を得ました。ただ知識を得るだけでなく、自ら得た知識を発信していく（アウトプットに重きを置く）ことで主体的に学ぶ意識付けをすることができました。

最終日はインターンシップのまとめとして、プレゼンという形で極東興和の社員の方々と一緒にインターンシップに参加した学生の前で発表させ

ていただきました。緊張した瞬間でしたが、プレゼン力（発信力）を鍛える良い機会になりました。また、プレゼンをするにあたって海外の方の特徴的なプレゼンを見て、非常に面白かったのは是非皆さんにも共有したく、動画のURLを貼るので何かの発表の際の参考になれば幸いです。

〈<https://youtu.be/ToJD5r2SmwI>〉

この10日間のインターンシップは、とても充実したものになりました。自分自身の成長についての意識、今後の生活の意識を変えることができました。また、コロナ禍で緊急事態宣言がでている中で、温かく迎えて下さり、コロナ対策に尽力して頂いた極東興和株式会社の皆様への感謝を持ちまして、インターンシップ報告とさせていただきます。



インターンシップを通して学んだこと

都市システム工学科4年 古川 綾奈

私は、郡山市にある株式会社郡山測量設計社さんのインターンシップに10日間参加させていただきました。株式会社郡山測量設計社さんは、測量や設計を行っている地域密着型の会社です。今回のインターンシップでは、大きく分けて3つのことを経験させていただきました。

1つ目は、測量についてです。座学や電子基準点の見学、GNSSの実習、TSやレベルを使用した路線測量、ドローンを使った写真測量、3Dレーザースキャナーの実習、平田村役場での現地測量と基準測量を行いました。また、3Dモデルを作成する実習や、ソフトを使って測量の結果を図面に起こしたり、工事の施行手順などのシミュレーションをしたりする実習も行いました。

2つ目は、設計についてです。河川事業や道路計画についての座学、現地踏査で喜多方市の河川や砂防ダム、国道288号線、田村市のパークゴルフ場や産業団地の見学を行いました。また、設計された街並みを地域の方々が想像しやすくするため、ソフトを使って完成予想図のVR映像を作成するという実習も行いました。

3つ目は、災害時にどのような対応を行うかに

ついてです。社員さんや支社の方々もリモートで参加し、災害が起きた後に行う測量で気を付けるべき点や、災害復旧するための設計時に気を付ける点などを学びました。

今回のインターンシップを通して、一括りに測量といっても内容はとても様々なこと、設計をする際にはたくさんの決まり事があり、しっかり守りながら設計され、安全性が保たれていること、災害時には迅速に正確に仕事を行うことが大切であることを学びました。

また、何よりも大事なのは、利用する地域の方々のことを思い、些細なことにも気を付けながら仕事することだと学びました。

お忙しい中、インターンシップを開催していただいた、郡山測量設計社の皆様に御礼申し上げます。



インターンシップを経て

ビジネスコミュニケーション学科4年 志賀 あみ

私は今回、株式会社エイブル（以下エイブル）と、エイブルとつながりがあった大熊町役場のインターンシップに参加させていただきました。

普段は座学が中心である私たちにとって、初めての経験が非常に多かった1週間でした。初日には、まず大熊町の概要を知り、役場の業務を体験させていただきました。2日目と3日目で、帰還困難区域及び中間貯蔵施設の視察、好間工業団地にあるエイブルのバイオマス・太陽光発電所の視察をしました。改めて震災や放射線の被害の大きさを感じ、小学2年生に震災を経験している身として、忘れてはいけない事実であることを実感しました。現場視察や町内視察で実際に自分たちの目で見ることによって、考えを深められました。また、大熊町は2040年までのゼロカーボン宣言を出し、その実現のためにエイブルと連携しています。ゼロカーボンとは、企業や家庭から排出されるCO₂などの温室効果ガスを削減し、削減しきれない排出量を森林の吸収分と相殺して、実質的に排出量をゼロにすることです。再生可能エネルギーの活用がゼロカーボンへの大きな1歩であることを学びました。その他にも、ネクサスファ-

ムの視察など、大熊町の現状についての理解を深める体験を多くさせてもらいました。最終日のプレゼンテーション（テーマは“大熊町復興に向けて私たちになにができるか”）は、エイブルの佐藤社長をはじめ、芥川先生など、お世話になった多くの方に聞いていただきました。プレゼンテーションの準備期間は少なかったものの、今回学んだことを基に問題点を洗い出し、それらに対する解決策を学生の視点で提案することができたと思います。佐藤社長からの講評にもありましたが、今回の経験を活かし、これからの進路選択や勉学により一層精進していこうと思いました。



インターンシップを終えて

ビジネスコミュニケーション学科4年 渡邊 順子

私は8月17日～20日の4日間、古殿町役場にてインターンシップを実施していただきました。

住民の方たちに対してあらゆる面から『直接』サポートを行う地方公共団体の仕事に以前から興味があり、その中でも特に、公務員という仕事に強く興味があった為、役場でのインターンシップを行うことに決めました。

古殿町役場では、主に総務課での事務業務を体験させていただきました。役場内での仕事は、自分が思っていた以上にデスクワークが多い印象を受けました。しかし、それと同時に町民の方々と強いつながりを実感することも出来ました。Excelを使った事務作業やWeb会議への参加、町内観光施設の管理など多岐に渡る業務を体験させていただきましたが、それらの仕事は、どれも住民の方々に役立っていることばかりでした。職員の方も、「国や県、市に比べ町役場は、町民の方々と距離が近いため一人一人と向き合いながら仕事ができることが特徴だ」とおっしゃっていました。

私ははじめ、古殿町役場といわき市役所の2カ所へのインターンシップを希望していましたが、

コロナウイルスの影響により、いわき市役所でのインターンシップは延期になってしまいました。しかし、市と町における行政の役割の違い、仕事内容の違いといった点についても、併せて教えていただき、様々なことを学ぶことができました。

インターンシップを終えた今、「地方公共団体の仕事に興味があるなあ」といった少し曖昧だった思いが、はっきりとした思いに自分の中で変わったように感じます。インターンシップを通して学んだことを今後の自分の勉強などに生かし、将来に繋げていきたいと思います。

最後に、コロナ禍においてインターンシップが延期や中止、オンラインでの実施になる企業が多い中、庁舎内でのインターンシップを受け入れ、貴重な経験をさせてくださった担当者様をはじめ、古殿町役場の職員の皆さまに心から感謝いたします。



インターンシップを終えて

産業技術システム工学専攻 生産・情報システム工学コース1年 鈴木 佑弥

私は今回、9月6日から10日の5日間、東新工業株式会社いわき四倉工場でインターンシップに参加させていただきました。東新工業株式会社では、スマートフォンやPCなどのコネクタ部分のめっき加工を主に実施していて、今回は会社の業務についての講義や四倉工場の見学、めっき加工の実習などを行いました。

まず講義では、めっき加工には様々な方法があり、東新工業株式会社では電気めっき・フープめっきといった方法で加工を行っていることを知りました。実際に工場内を見学した際に加工の様子も見る事が出来ましたが、とても小さな部品の一部分に正確にめっき加工がされていました。この加工を行う装置も内製化していて、社員の方が設計から行い、シーケンス制御など学校で学んだ知識も実際に活かされていることを実感することができました。

実習では定規やスプーン、ねじなどの金属部品に実際に金めっき加工を行いました。加工のための治具をどのような形にするのかを自分たちで考え、作成を行いました。特にねじはどうしても金めっきの付かない箇所が出てしまうなど失敗もしましたが、最終的には綺麗にめっきが付いたねじ

が完成し、自分で考えて作ることの楽しさも実感することができました。

また、新製品をグループで考案し、その製品の機構から原価・値段・売り方などを全て考え、最終的には新商品についてのプレゼンテーションを行うデザインレビューも行いました。規模は小さいですが、いい品物を安くかつ期限内に計画的に行うことの難しさやコミュニケーションの大切さ、発表までつなげられたことへの達成感などを得ることができ、とても良い経験になりました。

5日間という短い期間のインターンシップでしたが、様々な方からお話をいただけて、実習をとおして学校では中々出来ない経験もあり、とても有意義なインターンシップになりました。今回の経験を、今後の学校生活や社会人となった際にもつなげていきたいと思っています。



インターンシップに参加して

産業技術システム工学専攻 エネルギーシステム工学コース1年 久保 佳透

私は8月末から9月上旬にかけての10日間で、富士通グループ企業が協働で主催したインターンシップに参加いたしました。

富士通株式会社とそのグループ企業は、金融や製造、医療など、ありとあらゆる業種・業界に対して、製品やITソリューションを通して、デジタル化を支援しています。今回のインターンシップでは、案件の企画・提案からWebアプリケーション制作を課題として、システムエンジニア業務を体験しました。

共同制作するメンバー内で最終目標とするモノは同じであっても、目標達成への考え方やアプローチが各々で違っていたり、意思疎通にズレが生じることが多かったです。「報連相」や積極的な意見交換を十分に意識していたつもりでしたが、自分の意見を的確に言語化して伝えることが難しいと強く実感しました。

成果物を報告する中間発表と最終発表では緊張しましたが、良い点についても至らなかった点についても、厳しくも丁寧でとても有難いフィードバックを頂きました。

また、アプリ制作の他にも、キャリアデザインについて考える機会も頂きました。漠然とした将来への不安は今でもあります、社会で活躍している方々からお聞きすることはどれも参考になるばかりでした。

今回のインターンシップは、新型コロナウイルスの影響から遠隔による実施でした。チームメンバーや企業の方々に直接お会いすることは出来なかったのですが、遠隔開催で参加しやすいことから全国各地の方々と交流できて新鮮でした。また、社員の方々のお話を聞いたり、同学年の工学系学生と相談することで、私一人では考えに及ばないものも得ることができ、とても刺激的なものでした。このインターンシップで見つけた自分の課題点や、得られた学びを忘れず、より一層勉学に励んで参りたいと思います。

最後に、大変なコロナ禍でも貴重な場を設けてくださった富士通株式会社とグループ企業の担当者様、事務局の株式会社TAGS様に御礼申し上げます。

インターンシップ報告

産業技術システム工学専攻 化学・バイオ工学コース1年 大神 旺杜

私は、9月27日から10月8日の間、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科バイオベースマテリアル専攻 青木隆史先生の研究室にてインターンシップを受けさせて頂きました。青木先生の研究室では、食材として利用されずに廃棄されている鮭の白子に大量に含まれているDNAから作製可能なポリマーについて研究しています。天然高分子であるDNAより作製されたポリマーは、今後の医療において重要になると考えられている人工臓器等への活用が期待されています。

今回のインターンシップでは、研究生の方が行っている研究の一部を体験させて頂きました。実習内容として、天然高分子の一種であるアルギン酸カルシウムゲルとDNAを含んだアルギン酸カルシウムゲルの作製、各ゲルの性質の評価を行いました。

始めにアルギン酸カルシウムゲルを作製し、ゲルの大きさや形を観察しました。次に、DNAを含まないゲルと含まないゲルを乾燥させた後の膨潤の様子に差があるかを確認しました。また、光学顕微鏡によるゲル表面の観察、走査電子顕微鏡（SEM）による乾燥ゲル表面の観察、熱重量分

析（TGA）結果によるゲルの熱分解温度の算出を行いました。実験操作中には、研究生の方や青木先生から実験操作において改善すべき点を教えて頂き、これまでの自分の行動を見直すことが出来ました。

今回のインターンシップは、私にとってとても充実したものとなりました。実習中は、青木先生から研究を進めていくために重要な事柄を教えて頂きました。また、研究生の方や青木先生から大学院のカリキュラム等について教えて頂き、大学院についてより理解を深めることが出来ました。これらのアドバイスを進路の選択や、今後の研究活動に活かしていきたいと思っています。研究活動等でお忙しい中、インターンシップをお受け頂いた青木隆史先生、研究生の方々への感謝をもちまして、インターンシップ報告とさせて頂きます。



インターンシップ報告

産業技術システム工学専攻 社会環境システム工学コース1年 鶴沼 大翔

私は、株式会社近代設計東北支社様にて8月23日から9月10日までの3週間、インターンシップに参加させていただきました。株式会社近代設計は、東京に本社を置き、主に橋梁設計や道路設計、街路の無電柱化業務などを行っている会社です。

今回のインターンシップでは、前半の8日間は無電柱化業務に関連して、電線共同溝設計業務のための基礎資料作成、調査を担当させていただきました。具体的な研修内容としては、期間中に行われる共同事業者との合同現地踏査で使用する様々な資料や図面の作成、現地踏査同行時は現場写真の撮影業務を行いました。実際に現場で使用され、さらに他社の方々にも見られる図面や資料を作るということで責任重大であり、緊張感のある業務でしたが、社員の方と何度もチェックを重ね、正確で見やすいものを作ることができたと思います。

後半の7日間は橋梁設計業務に関連して、電算プログラムを用いた橋脚の安定計算を行いました。具体的な内容として、過去に行った設計を、当時使用したものと別のプログラムを使用して再現することで、プログラム間の計算結果に違い

があるかを検証しました。道路橋について、示方書などを見て勉強をしながら設計再現業務を進め、設計について理解を深めることができました。

今回のインターンシップを通して、学校で学んでいる知識の重要性を改めて感じる事ができました。社員の皆様から今後どのように勉学に励むべきかなどたくさんのアドバイスをいただくことができ、確実に自身の成長につながるインターンシップになったと思います。社員の皆様からのアドバイスを今後の学校生活に反映し、卒業後よい社会人になれるよう頑張っていきたいと思います。コロナ禍で大変ななかにも関わらず、インターンシップの受け入れをしてくださった株式会社近代設計東北支社の皆様に感謝申し上げます。



「カヤック流企画塾」に参加して

ビジネスコミュニケーション学専攻 ビジネスコミュニケーション学コース1年 嘉齊 淨

私は、株式会社カヤック（以下カヤック）にて「カヤック流企画塾」と称された2週間のインターンシップに参加しました。カヤックとは、神奈川県鎌倉市に本社を置くWeb制作・企画・運営会社であり、イベントの企画や飲食店の運営なども行っている会社です。自らを「面白法人」と称しており、その背景には、「自分たちが面白がろう。」「周囲からも面白い人と言われよう。」「誰かの人生を面白くしよう。」という3つの想いが込められています。その名の通り、カヤックでは様々な「面白い」イベントや事業の企画運営が行われており、その環境で働く社員の方々から実際に企画立案の手法を学ぶことができたことは非常に良い刺激になりました。

私が今回学んだことで特に衝撃を受けた項目が2つあります。まずは、「ブレインストーミング(以下ブレスト)で成果を出す方法」です。カヤックで行われるブレストは、「現状把握」「課題発見」「アイデア出し」という3段階に分かれており、最終的なアイデアをより明確なものにすることができま

した。今回学んだことを活かし、企画運営を行う際に実行したいです。

次に「バズる企画のつくりかた」です。バズとはシェアが連鎖することで大規模な拡散が起こることという考えの元、「バズワードを見つける」「そのワードを磨き上げる」「興味の入り口とシェアの出口を組み立てる」という3段階で企画立案を行うことを学びました。特に、ターゲットがつかいクリックしたくなるきっかけづくりと、コンテンツを体験した人が誰かに言いたくなる動機づくりの重要性と手法には感銘を受けました。

そのほかにも、企画立案の画期的な手法をたくさん学ぶことができました。今回学んだことを、これまで高専で学んできたことと組み合わせることで、卒業後に即戦力となるよう尽力していきたいと思っています。



インターンシップ協力企業等一覧 ご協力に感謝申し上げます

(学科別に順不同)

本科

機械システム工学科

曙ブレーキ工業株式会社
旭化成株式会社
EIZO株式会社
オリエンタルモーター株式会社 相馬事業所
株式会社NTT東日本-東北
株式会社JERA
株式会社LIXIL
株式会社人機一体
株式会社日立テクノロジーアンドサービス
株式会社富士通エフサス
株式会社富士テクノソリューションズ
株式会社マイスターエンジニアリング
関西電力株式会社
サントリーホールディングス株式会社
新日本テクノカーボン株式会社
東京大学先端技術研究センター
東新工業株式会社
東北大学 金属材料研究所附属 量子エネルギー材料科学 国際研究センター
豊橋技術科学大学
日本原子力研究開発機構(JAEA)
ファナック株式会社
フードテクノエンジニアリング株式会社
富士通HRコンサルティング株式会社
富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

電気電子システム工学科

株式会社NECネットエスアイ
株式会社jig.jp
株式会社総合通信
株式会社東日本計算センター
株式会社マイスターエンジニアリング
京セラコミュニケーションシステム株式会社
グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社
CTCテクノロジー株式会社
電源開発株式会社
東京ガスパイプネットワーク
東京大学先端技術研究センター
東京電力ホールディングス(福島第一原子力発電所)
東芝プラントシステム株式会社
東新工業株式会社
豊橋技術科学大学

ナンバーズ株式会社
ファナック株式会社
三菱重工環境化学エンジニアリング株式会社
三菱電機ビルテクノサービス株式会社
明電エンジニアリング株式会社
メタウォーター株式会社

化学・バイオ工学科

大竹写真株式会社
堺化学工業株式会社 小名浜事業所
筑波大学 理工学群応用理工学類
筑波大学生物資源学類
東京大学先端技術研究センター
東北大学
福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター
三菱ガス化学株式会社 鹿島工場

都市システム工学科

旭化成株式会社
エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
株式会社LIXIL
株式会社東コンサルタント
株式会社いわき印刷企画センター
株式会社小野工業所
株式会社郡山測量設計社
株式会社横河ブリッジホールディングス
極東興和株式会社
クリナップ株式会社
公益財団法人福島県下水道公社
国土交通省東北地方整備局 磐城国道事務所
国土交通省東北地方整備局 小名浜港湾事務所
ジェコス株式会社
常磐開発株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東芝プラントシステム株式会社
日栄地質測量設計株式会社
日本製鉄株式会社
日本ファブテック株式会社
東日本コンクリート株式会社
福浜大一建設株式会社
フタバコンサルタント株式会社
メルディアグループ株式会社 三栄建築設計
ユニオン建設株式会社

ビジネスコミュニケーション学科

ECCジュニア郷ヶ丘教室
いわきヤクルト販売株式会社
大熊町役場
株式会社エイブル
株式会社NTT東日本-東北
株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー
株式会社いわき印刷企画センター
株式会社いわき市民コミュニティ放送
株式会社メンバーズ
株式会社山新 日和田店
相馬市役所
トースン株式会社
福島県商工信用組合
古殿町役場

専攻科

株式会社近代設計
株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北
株式会社東日本建設コンサルタント
株式会社日立ビルシステム
株式会社富士ピー・エス
株式会社LIXIL
関西電力株式会社
原子力発電環境整備機構
国土交通省東北地方整備局 磐城国道事務所
大日精化工業株式会社
筑波大学 生命地球科学研究群 生命環境系
東京ガスパイプネットワーク株式会社
東芝インフラシステムズ株式会社
東新工業株式会社
東日本旅客鉄道株式会社 水戸支社
富士通HRコンサルティング株式会社
フタバコンサルタント株式会社
三井共同建設コンサルタント株式会社

大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業

福島高専では、福島イノベーション・コースト構想推進機構が実施する「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業」の採択を受け、連携する自治体・機関等と協力しながら特色ある取り組みを行っています。令和3年度は次の2件の事業を展開し、人材育成・産業振興の面から地域の復興に貢献しています。

広野町における未利用資源の探索と資源化 みかんプロジェクト

活動の目的は、地域の活性化のための提案や取り組みを理解し、支援あるいは参加できる人材の育成です。その目的を達成するために、私たちは「教育」、「農業」、「環境」の分野で活動し、必要な環境づくりに取り組んでいます。

具体的には、教育分野では、広野町立広野小学校で、微生物に特化した放課後理科教室を開催して、微生物への興味や関心を喚起し、広野町のシンボル「みかん」から有用微生物の探索を行います。

農業分野では、施設園芸農業に注目して、広野町で行われている「バナナ栽培」が直面している省エネ、栽培管理などの問題を解決するために（株）広野町振興公社様とその解決のために環境の見える化に取り組んでいます。最後の環境分野での活動は、廃棄物の再資源化として、バナナ栽培に伴う農産廃棄物を資源とできるよう加工方法の検討を行っています。

これらの取り組みには、広野町で復興知の活動を展開している広野町分科会と連携することで、高校、中学校へ活動を拡大する準備を進めています。農業分野では復興農学会との連携、農業の省エネルギーでは、産業技術総合研究所（福島再生エネルギーセンター）様の実証試験に参加しています。ここでは、施設園芸での地中熱の効果的な利用方法について検討をしています。



福島復興知学の深化と展開 ミルフィーユ型人材の育成基盤構築

この事業は、イノベーション・コースト構想の推進に必要な多層的な知識・技能を身につけた人材を「ミルフィーユ型人材」とし、自治体・大学等・企業等と連携してミルフィーユ型人材を育成することを目的としています。さらに、このミルフィーユ型人材の育成を通じて、産業創出や国際的情報発信を行うことも目指しています。これらの目標を達成するため、これまでに幅広い層を対象に公民館での市民講演会やオンラインでのセミナーを開催しています。また、浜通りの復興の取組を大学生によって発信するためのフィールドワークを実施し、福島高専と東京大学の学生が東京電力福島第一原子力発電所や東京電力廃炉資料館などを見学しました。フィールドワークで得た知見を活かし、浜通りでのまなびにつながるツアーの検討なども行っています。今後は、自治体や地元施設と連携し「福島ならではの」学術文化を創造し、人材育成と地域活性化に貢献できるよう活動を展開してまいります。



～大熊町・花舞台～ 大熊町民と共同で花畑作り

本校では、東日本大震災からの復興支援に向けた取組の一つとして、原子力発電所事故により放出された放射性物質の除染作業によって発生した土壌（除去土壌）の再生利用に関する理解醸成事業を行っています。

この事業の一環として、地域住民とのコミュニケーション、相互理解を図る目的で昨年度から「大熊町・花舞台」と題し、住民の皆さんと学生との共同作業により花畑作りを行っています。今年度は、除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合（VOREWS）の支援の下、7月から作業が開始され、昨年度に引き続き住宅地などに色鮮やかな花畑を整えることができました。作業の後は地域の復興をテーマにした学生等の発表や意見交換会を毎回行っており、学生にとって貴重な学びの場となっています。

昨年度はこの活動が評価され、福島民報社主催第6回ふくしま産業賞（学生部門）銀賞を受賞したほか、今年度は中心的に活躍する学生が「ふくしま復興大使」（福島民報社事業）として復興の先進地視察（淡路夢舞台等）に派遣されるなど様々な評価をいただくことができました。この活動には毎回継続して参加して下さる大熊町民の方もおり、皆様方からのご支援を励みに活動を発展させていきたいと考えています。



出前授業について

本校では、地域貢献事業の一環として、福島県内の小・中学校や公民館などで各学科それぞれが特徴ある出前授業を行っています。ここでは、電気電子システム工学科の教員と本科学生・専攻科学生が担当したものについて紹介します。本年度は、いわき市立平第四小学校、小名浜公民館、鹿島公民館、渡辺公民館、山田公民館で小学生対象の出前授業を実施しました。テーマは、「再生可能エネルギーについて考えよう」です。簡単な講義に加えて、体験型学習の中で理解を深めてもらいました。体験型学習の内容は、低学年生が絵本、すごろく、七並べ、神経衰弱、中学年生が再生可能エネルギーを題材としたデジタルゲーム、高学年生が廻り水車の製作です。昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症対策として「部屋の換気」、「マスクの着用」、「手指の消毒」などを徹底した中での実施となりましたが、小学生だけでなく本校学生も充実した表情で体験型学習に取り組んでいたのが印象的でした。参加した教員にとっても、エネルギー教育の重要性について改めて気付くことができた大変貴重な体験でした。今後も引き続き、地域の子供たちのために出前授業活動を行っていききたいと思います。



第56回全国高専体育大会結果

■陸上競技

仙台高専（宮城県総合運動公園陸上競技場
「キューアンドエースタジアムみやぎ」）
(男子)

学校対抗		第3位
400m	佐藤 優斗 (5C)	第3位
110mH	箱崎 優大 (3M)	第2位
400mH	佐藤 優斗 (5C)	第1位
〃	箱崎 優大 (3M)	第4位
走高跳	牧野 陸 (3T)	第3位
三段跳	アチャラファムエリック (4M)	第3位
円盤投	瀬和 直哉 (4C)	第6位
4×400mR (アチャラファムエリック・山田・箱崎・佐藤)		第3位

(女子)

100m	安斎 初佳 (4C)	第6位
------	------------	-----

100m	白石 遥菜 (3B)	第8位
100mH	上野 美咲 (5B)	第7位
走幅跳	畠山 茉紘 (5B)	第8位
4×100mR (畠山・安斎・上野・白石)		第5位

■卓球

福島高専（ならはスカイアリーナ）
(男子)

団体戦		第3位
シングルス	赤津 陽斗 (5E)	第5位

(女子)

団体戦		第3位
ダブルス	浅川 胡桃 (3B)	第3位
	岡田 紗季 (1T)	第3位
シングルス	浅川 胡桃 (3B)	第5位

第56回全国高専体育大会東北地区予選会結果（令和3年度）

—東北地区大会—

■バドミントン（男子）

団体戦		第1位
シングルス	薄葉 健大 (5M)	第1位
ダブルス	薄葉 健大 (5M)	第2位
	佐々木 笙 (5C)	第2位

■バドミントン（女子）

団体戦		第1位
シングルス	根本 真央 (5C)	第2位
ダブルス	草野 優夏 (5B)	第1位
	赤塚 優花 (5B)	第1位

■ソフトテニス（男子）

団体戦		第1位
個人戦	猪狩 浩葵 (1E)	第3位
	橋本 大知 (2T)	第3位

■ソフトテニス（女子）

個人戦	大和田夏美 (5T)	第1位
	猪狩 澄玲 (5T)	第1位

■卓球（男子）

団体戦		第2位
シングルス	赤津 陽斗 (5E)	第3位
ダブルス	赤津 陽斗・松本 拓樹 組	第3位
	水竹 巧・高橋 悠輔 組	第4位

■卓球（女子）

団体戦		第1位
シングルス	浅川 胡桃 (3B)	第1位
	渡邊 順子 (4B)	第4位
ダブルス	浅川 胡桃・岡田 紗季 組	第1位
	佐藤 菜摘・渡邊 順子 組	第3位

■硬式野球（名取市）

予選会	福島 3-20 一関
-----	------------

■水泳競技（男子）

50m自由形	馬上 隼 (3E)	第3位
〃	西山 駟 (2C)	第5位
100m自由形	小針 聡真 (4C)	第2位
800m自由形	鈴木 悠磨 (3M)	第2位
100m平泳ぎ	八木まなと (2M)	第2位
200m平泳ぎ	八木まなと (2M)	第1位
100mバタフライ	渡邊 瑞樹 (2M)	第4位
200mバタフライ	渡邊 瑞樹 (2M)	第1位

■水泳（女子）

100m自由形	伊藤 波 (2C)	第1位
100mバタフライ	佐藤 茜音 (1T)	第3位
200m個人メドレー	菅野いちご (3T)	第3位

第67回福島県高等学校体育大会結果

■陸上競技（男子）

110mH	箱崎 優大 (3M)	第2位
	(東北大会出場)	
400mH	箱崎 優大 (3M)	第3位
	(東北大会出場)	
走高跳	牧野 陸 (3T)	第6位

■水泳（男子）

200m平泳ぎ	八木まなと (2M)	第16位
〃	西山 駟 (2C)	第25位
50m自由形	馬上 隼 (3E)	第28位
4×100mリレー	馬上・西山・鈴木・渡邊	第22位
100mバタフライ	渡邊 瑞樹 (2M)	第29位
〃	鈴木 悠磨 (3M)	第35位
100m平泳ぎ	八木まなと (2M)	第16位
〃	西山 駟 (2C)	第31位

4×200mリレー	馬上・西山・鈴木・渡邊	第15位
100m自由形	馬上 隼 (3E)	第30位
200m個人メドレー	渡邊 瑞樹 (2M)	第19位
4×100mメドレーリレー	渡邊・八木・鈴木・西山	第22位

■水泳（女子）

100m背泳ぎ	伊東 波 (2C)	第11位
200m自由形	工藤 風彩 (3C)	第15位
4×100mリレー	伊東・菅野・工藤・佐藤	第15位
200m背泳ぎ	伊東 波 (2C)	第15位
100mバタフライ	佐藤 茜音 (1T)	第13位
100m自由形	工藤 風彩 (3C)	第29位
200m個人メドレー	菅野いちご (3T)	第15位

第67回福島県高等学校体育大会結果

■弓道（男子）			
団体			準決勝進出
個人	浅見 圭祐（3E）		準決勝進出
■バレーボール（男子）			
	福島高専 0 - 2	福島高校	
■水泳			
◎第56回福島県高等学校新人体育大会水泳競技大会			
男子			
100m平泳ぎ	八木まなと（2M）		第9位
200m平泳ぎ	八木まなと（2M）		第10位
女子			
100m背泳ぎ	伊藤 波（2C）		第7位
200m背泳ぎ	伊藤 波（2C）		第9位
100mバタフライ	佐藤 茜音（1T）		第9位

■陸上（男子）			
◎第61回福島県高等学校新人体育大会陸上大会			
110mH	渡部 旭（1T）		第6位
■弓道			
◎福島県高等学校新人体育大会弓道競技大会			
男子個人	長谷野将吾（2T）		準決勝進出
女子個人	小野 咲来（2C）		準決勝進出

全国高等学校総合体育大会結果

■陸上競技（男子）			
◎第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会			
110mH	箱崎 優大（3M）		準決勝4位

東北高等学校体育大会結果

■陸上競技（男子）			
◎第76回東北高等学校陸上競技選手権大会			
110mH	箱崎 優大（3M）		第4位 （全国大会出場）

福島県総合体育大会結果

◎第74回福島県総合体育大会			
■弓道競技（男子）			
団体			第10位
個人	浅見 圭祐（3E）		第10位
■バスケットボール			
男子	福島高専 54 - 71	会津クラブ	
女子	福島高専 18 - 132	帝京安積	
■水泳（男子）			
200m平泳ぎ	八木まなと（2M）		第14位
100mバタフライ	渡邊 瑞樹（2M）		第30位
100m平泳ぎ	八木まなと（2M）		第17位
〃	西山 駈（2C）		第30位

インカレ大会結果

■陸上競技（男子）			
◎第74回東北学生陸上競技対校選手権大会			
400mH	佐藤 優斗（5C）		第3位
3000mSC	目黒 光樹（5T）		第12位

各協会・連盟主催大会等

■硬式野球			
◎第73回春季東北地区高等学校野球福島県大会 いわき支部大会			
	福島高専 0-13	桜が丘	
	福島高専 0-14	平工業	
◎第103回全国高等学校野球選手権福島大会			
	福島高専 2-4	小高産技	
■サッカー			
◎第100回全国高等学校サッカー選手権福島大会			
1回戦	福島高専 2-1	保原高校	
2回戦	福島高専 1-4	本宮高校	
■卓球			
◎令和3年度福島県卓球選手権大会			
ジュニア女子シングルス			
	岡田 紗季（1B）		ベスト32
女子ダブルス			
	浅川 胡桃（3B）		
	岡田 紗季（1B）		ベスト32
混合ダブルス			
	浅川 胡桃（3B）		
	赤津 陽斗（5E）		ベスト32

各種大会等の結果

■将棋部			
◎第57回全国高等学校将棋選手権大会福島県大会			
団体戦			第4位
■ソフトウェア研究会			
◎AWS Robot Delivery Challenge 2021			
初心者部門	佐藤 龍熙（4E）		
	岸本 篤（4E）		準優勝

■演劇部			
◎いわき地区高等学校演劇コンクール			
	いわき地区高等学校演劇発表会		優秀賞第3席 参加
■茶華道部			
	いわき学校茶道連盟第49回合同発表会		参加
	いわき学校茶道連盟第50回合同発表会		参加

令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞しました

本校機械システム工学科の鈴木茂和准教授が、令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）を受賞しました。

この賞は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者を表彰するもので、鈴木准教授が取り組んできた原子力発電所の廃炉技術の人材育成事業である「廃炉創造ロボコンによる廃炉遠隔技術の理解増進」の取組が認められ、今回の受賞に至りました。

表彰式は、4月14日に行われ、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各賞代表者への表彰の様子が文部科学省からライブ配信されました。

表彰式では、萩生田文部科学大臣から、受賞者に「科学技術イノベーションを担い、未来を切り開くのは「人材」であり、多様な研究者が自由に挑戦的な研究に腰を据えて取り組めるよう、研究支援の充実にも積極的に取り組んでまいります。これからも更なる課題に挑戦していただくことを期待しています。」と話がありました。

ライブ配信で行われた表彰式後に、本校大会議室で伝達式が行われ、山下校長から鈴木准教授へ表彰状が伝達されました。

鈴木准教授は、「今回の表彰は協力してくれた全員で受賞したものです。安心安全な福島第一原発の廃炉、浜通りの復興に向けて貢献できるよう頑張っていきます。」と謝辞を述べました。



「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する日本セミナー（JSTS2021）」を開催しました



本校では、9月13日（月）～17日（金）5日間、オンラインによる「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する日本セミナー（JSTS2021）」を国立高等専門学校機構が主催、長岡技術科学大学と豊橋技術科学大学が共催、福島工業高等専門学校が開催担当校となり開催しました。

参加者は、全国の国公立高専の専攻科1、2年生と本科3～5年生、長岡・豊橋両技科大学の大学院生及び本校の学生運営委員の34名、外国からは、タイ、ベトナム、フィンランドの海外協定校の学生15名で、合計49名でした。

本セミナーは、英語でのグローバルコミュニケーション能力と多様な背景をもつ、初めて出会ったメンバーが協働してプロジェクトを遂行する能力を向上させることを目的としています。

グループワークでは、8チームに分かれて、SDGs17をベースとした問題意識を持つトピックについて英語でディスカッションしながら、ドキュメンタリーショートムービーの作成に取り組みました。

最終日の9月17日（金）には、チーム毎にグループワークで完成させたドキュメンタリーショートムービーを発表しました。各チームからは、海洋汚染問題と（COVID-19の予防として使用する）マスクの廃棄について問題提起し、再利用による解決策を発表した”SEEING SEA-PLASTICS”や、教育問題をジェンダー、貧困、職業選択などに結び付けて掘り下げた”EDUCATION: SOLUTION TO MANY”、パペットを利用して親しみやすく地球の環境問題を発表した”～ EARTH AND US ～”などの素晴らしい作品の発表がありました。

続けて行われた閉会式では、本校山下治校長から開催関係者に謝辞が述べられ、「参加した皆さんは、セミナーの意義や知識を共有し、持続可能な発展推進に向けて、輪を広げてほしいです。」と挨拶がありました。

福島高専が一連の学生参加の国際セミナーを担当校として開催するのは、今回のJSTS2021が最後となり、来年度は次の開催担当校へと引き継がれます。

産業サポート白河と連携協定を締結しました

福島高専は、10月8日（金）、一般社団法人産業サポート白河と包括的連携に関する協定を締結しました。協定式では、鈴木和夫白河市長立ち合いのもと、山下治福島高専校長と加藤和明産業サポート白河代表理事が協定書に署名し、両機関の資源を有効活用した協働活動の推進によって県南地域の産業振興、人材育成に長期的な視野で貢献していくことを誓いました。鈴木白河市長からも、この連携を契機とした産業振興、時代の変化に対応した産業人材育成に向けて期待の言葉が贈られました。今後は、福島高専から県南地域で実施されるイベントへの講師派遣や出前授業等が予定されているほか、教員と企業による技術交流などの面での連携が期待されます。



「第56回全国高等専門学校体育大会 第55回全国高等専門学校体育大会卓球競技」を開催！

10月30日（土）・31日（日）の両日、檜葉町の「ならはスカイアリーナ」において、「第56回全国高等専門学校体育大会 第55回全国高等専門学校体育大会卓球競技」を、本校主管で開催しました。卓球競技は、第2回全国高等専門学校体育大会からはじまり、今年で第55回を数え、北海道地区を除く全国7地区から男女14校が参加しました。

今回の大会では、「東京2020夏季オリンピック」での卓球日本チームの活躍から、高専体育大会においても卓球競技が注目されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、開催日程が本来の8月から10月に延期となったうえ、残念ながら無観客での開催となりました。しかし、選手達は、アリーナに設置された卓球台の上を行き来する白球を懸命に追いかけて、勝利を目指して白熱した試合を展開しました。

大会の結果は、以下のとおりです。

- | | | |
|-------------|-----|--|
| ・男子団体戦 | 第3位 | |
| ・女子団体戦 | 第3位 | |
| ・女子個人戦ダブルス | 第3位 | 浅川 胡桃（ビジネスコミュニケーション学科3年）
岡田 紗季（都市システム工学科1年） |
| ・男子個人戦シングルス | 第5位 | 赤津 陽斗（電気電子システム工学科5年） |
| ・女子個人戦シングルス | 第5位 | 浅川 胡桃（ビジネスコミュニケーション学科3年） |

応援ありがとうございました。



本校の新型コロナウィ

遠隔授業

8月から10月にかけて（8月2日、3日、9月9日～15日、10月1日～15日）遠隔授業を実施しました。Microsoft Teams を利用した遠隔授業は2年目となり、教員と学生は工夫しながら授業に臨んでいました。



Teamsを利用した授業風景

対面授業

手洗いや消毒、換気等を意識し、なるべく密を避ける形で、授業を行いました。



実習工場の様子



情報演習室の様子



教室授業の様子

ルス感染拡大防止対応

コロナ禍における教育研究活動の継続

副校長（感染症対策担当） 高野 克宏

新型コロナウイルス感染症への対策を講じながらの学校運営は2年目を迎えました。この間、遠隔授業と対面授業を併用しながら、何とか高専らしい教育を継続すべく努力してきたところです。

本年度は、ほぼ通常の形態で授業等を開始することができました。しかし、7月25日に複数の寮生から新型コロナウイルスに感染したとの報告があり、急きょ、26日から休校としました。その後、9月までの間に遠隔によって授業を進めるとともに、前期期末試験を課題等に代替して実施することとしました。また、8月から9月にかけての感染拡大を受けて、後期ははじめの10月1日から15日までを遠隔授業期間としましたが、18日には通常の教育研究活動を再開しております。

8月から10月の間、東日本国際大学やときわ会グループのご協力をいただき、本校学生やその家族、および教職員を対象としたワクチン接種を進めてきました。その結果、11月末時点で、希望する学生のほとんどが2回目のワクチン接種を終えたものと考えられます。

新たな変異株の出現が報告されるなど、いまだ予断を許さない状況にありますが、今後も感染拡大防止対策を徹底しながら、令和3年度末に向けて教育研究活動を継続していきたいと考えております。



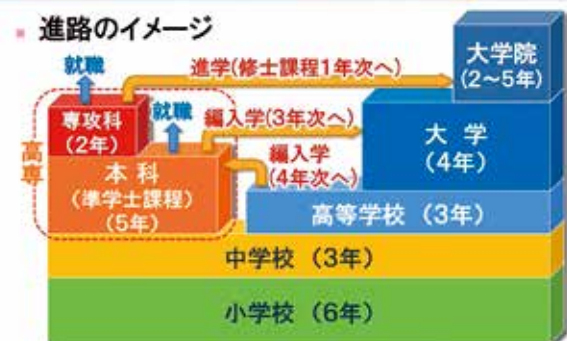
東日本国際大学におけるワクチン職域接種

体験入学

令和3年度の体験入学は、実施を予定していた9月25日（土）、26日（日）に昨年度と同様に中学生のみが各学科のデモ実験・演習に参加する方式で実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染者が多く、福島県内に「まん延防止等重点措置」が適用されたため、県内外から多数の中学生を集めることはせずに各学科で作成された動画を視聴していただくことになりました。

各学科とも、学科の概要やデモ実験・演習の様子などを限られた時間内にまとめた動画を作成し、視聴した参加者から好評でした。視聴後のアンケートでは「わかりやすい説明だった」「各学科の様子がわかった」などのコメントがあった一方で、「実際に見てみたかった」という意見も多くいただきました。来年度、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、従来の方法もしくは昨年度の方法で実施できればと思います。

高等専門学校(高専)とは？



機械システム工学科

機械システム工学科で何を学ぶの？

- 流れ
- 熱
- 材料
- 設計
- 制御
- 機械の運動
- 機械製図
- 工作実習



電気電子システム工学科

第二種電気工事士資格の実技練習の様子



化学・バイオ工学科



都市システム工学科

都市システム工学科は、社会(まち)のお医者さん



ビジネスコミュニケーション学科



新任教職員紹介



一般教科 講師 廣瀬 航也

こんにちは、一般教科（国語科）の廣瀬航也です。日本近代の文学や文化、比較文学などを研究しています。

ラジオを消すゼラチン質の闇の音

これは、第4回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞で高校・大学生の部大賞に輝いた、長谷川優子さんの一句です。ラジオを消す音を「ゼラチン質」と形容し、またそれを（ラジオではなく）「闇の音」とつなげる点に、この句の秀逸さを感じます。しかし、私が最も惹かれるのは、「ラジオを消す」という上の句の字余りです。作者が意図したかはともかく、あえて「を」という助詞を挟むことで、上の句の後に少しのポーズが生まれ、ラジオを消す「ブツン」という音が聞こえるような気がします。

皆さんの身近なところ、例えばペットボトルのラベルなどにも、文学は潜んでいます。言葉の機微を敏感に捉え、その想像力を可能な限り豊かに測定することを、これからも続けていきたいと思っています。



電気電子システム工学科 助教 佐々木 修平

電気電子システム工学科に着任いたしました佐々木修平と申します。福島高専本科・専攻科を卒業後、東北大学大学院に進学し、八戸高専を経て、母校である福島高専に戻ってきました。お世話になった先生方にお会いして、ついこの間のように懐かしく感じているとともに、時の流れの早さに驚いています。学生の皆さんも今を大事に過ごしてもらいたいです。

学生時代や八戸高専の経験を活かして、一から学生の皆さんと一緒に学んでいければと思っています。そして、たくさんの思い出を作っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



総務課 財務係長 数馬 康之

令和3年4月1日付で茨城大学から人事異動により参りました数馬です。本校の総務課財務係長を拝命いたしました。

茨城大学には18年間在籍しておりまして、携わってきた業務は、主に財務系やIR、国立大学法人評価などを担当してきました。高専勤務は初めてであり、大学とはまた違った業務運営を経験できるものと思っています。これまでの経験を生かして貢献していきたいと思っています。

Society5.0やDX、教育の内部質保証の促進など、最近の高等教育機関をとりまく環境は目まぐるしい変化にさらされています。この変化に対応していくためにも我々教職員一人一人が各高専を支え、ひいてはそれが国立高等専門学校機構の更なる発展を構築していくとの考えのもと、日々の業務を遂行していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

行事予定(後期)

2021年

11月

10日(水) TOEIC-IP試験(3年生対象)
17日(水) TOEIC-IP試験(4年生対象)
20日(土) 保護者個別面談会
25日(木) ~ 12月6日(月)
後期中間試験期間
27日(土) 専攻科社会人入試

12月

4日(土) 第18回全国高等専門学校デザインコンペティション2021 in 呉(広島県呉市)
13日(月) ~ 17日(金)
第56回全国高等専門学校体育大会兼
第54回全国高等専門学校サッカー選手権大会
15日(水) 学生会役員選挙
24日(金) 閉寮
冬季休業開始(1月4日(火)まで)
27日(月) 学校閉鎖期間(1月3日(月)まで)

2022年

1月

4日(火) 開寮
5日(水) ~ 6日(木) CBT試験(1、2、3年生対象)
7日(金) 授業開始
12日(水) 専攻科特別研究Ⅱ発表会(2年)

2022年

1月

15日(土) 推薦入試・寮スポーツ大会
22日(土) 第15回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(オンライン)
26日(水) 専攻科特別研究Ⅰ発表会(1年)

2月

1日(火) ~ 7日(月) 後期期末試験
13日(日) 学力入試
15日(火) 後期授業最終日
16日(水) ~ 18日(金) 補講期間
17日(木) 卒業研究発表会(電気)
22日(火) 卒業研究発表会(機械)
25日(金) 卒業研究発表会(化学・都市・ビジコミ)
28日(月) 卒業研究発表会(化学・ビジコミ)

3月

1日(火) 終業式・寮送別会
3日(木) 閉寮
19日(土) 卒業証書・修了証書授与式(いわき芸術文化交流館アリオス)
※18日(金)開寮~20日(日)閉寮

入学試験の日程

本科

- 一般推薦 ならびに 課題達成型推薦 による選抜
出願期間: 令和4年1月4日(火) ~ 1月6日(木)
面接日: 令和4年1月15日(土)
内定通知日: 令和4年1月20日(木)
入学確約書提出期限: 令和4年1月27日(木)
- 学力検査による選抜
出願期間: 令和4年1月24日(月) ~ 1月28日(金)
検査日: 令和4年2月13日(日)
合格発表日: 令和4年2月17日(木)
入学確約書提出期限: 令和4年2月22日(火)
- 帰国子女特別選抜
出願期間: 令和4年1月4日(火) ~ 1月28日(金)
検査日: 令和4年2月13日(日)
合格発表日: 令和4年2月17日(木)
入学確約書提出期限: 令和4年2月22日(火)

専攻科

- 推薦による選抜
出願期間: 令和3年5月11日(火) ~ 14日(金)
試験実施日: 令和3年5月22日(土)
(本校以外からの出願者のみ)
合格発表日: 令和3年5月27日(木)
入学確約書提出期限: 令和3年6月4日(金)
- 学力試験による選抜
出願期間: 令和3年6月7日(月) ~ 11日(金)
試験実施日: 令和3年6月19日(土)
合格発表日: 令和3年6月24日(木)
入学確約書提出期限: 令和4年1月14日(金)
- 社会人特別選抜
出願期間: 令和3年11月17日(水) ~ 19日(金)
試験実施日: 令和3年11月27日(土)
合格発表日: 令和3年12月3日(金)
入学確約書提出期限: 令和4年1月14日(金)

編集後記

福島高専「学校だより」第111号の発刊となりました。

令和3年度は、国内全域で「新型コロナウイルス感染拡大」となり、本校が立地する「いわき市」においても「まん延防止等重点措置」がとられました。本校在学生、および全教職員は、学内における感染に最大の留意をしながらの研究・教育活動、学校生活となっています。本刊もこれらの諸事情から発刊が遅れてしまいましたが、コロナ禍における本校の種々の取り組みが掲載されております。ご高覧いただければ幸いです。